

**学校法人香川栄養学園  
女子栄養大学短期大学部  
機関別評価結果**

**平成 20 年 3 月 19 日**

**財団法人短期大学基準協会**

## 女子栄養大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 香川栄養学園
理事長名	香川 達雄
学長名	香川 芳子
A L O	廣末 トシ子
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都豊島区駒込3丁目24番3号

## 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養学科		100
	合計	100

## 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

女子栄養大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 18 年 6 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

確立した建学の精神「食により人間の健康の維持・改善を図る」に基づいて明確な教育目的と目標が全学共通に理解されて、教育が実践されている。教育目的は「人体栄養並びに食生活に関する学術を教授研究し、教養ある社会人を育成する」であり、具体的教育目標は「優秀な栄養士ならびに栄養教諭を育成する」である。

教育の目的・目標を達成するために、実践栄養学（教育理念）に配慮した教育課程が体系的に編成されている。学生の多様なニーズに応えるため、多数の選択科目を開講している。授業内容、方法は定期的に改善を行っている。

専任教員数は短期大学設置基準を大幅に上回っている。講義室、演習室、実習室、自習室、図書館など教育環境は適切に整備され、十分に活用されている。

教育の内容と方法を改善して、教育目標を達成する取組みを推進し、成果をあげている。その教育成果の高い評価として、栄養士の高い資格取得率、専門職への高い就職率、併設四年制大学への高い進学率が維持されている。

入学者に対しては、「化学」を中心とする基礎学力強化の学習支援をしている。また、学生生活支援および進路支援体制も整備され、高い就職率と進学率が定着化している。

研究室、共同研究室、研究費など、研究活動を行うための条件は整備されており、教育とともに研究を重視する姿勢がみられる。教員は独自の研究のほかに、公的機関、企業、地域自治体からの受託研究を行っている。教育にかかわる研究も活発に行っており、医学教育賞を受賞した教員もいる。教員の研究活動は堅実に展開されている。

地域社会との交流活動として、地元自治体と連携して食・栄養・健康教育の普及に努めている。栄養教諭免許状取得希望学生が地元小学校に対する「食に対する指導」や地元自治体との交流活動でボランティア活動をしている。国際交流については、外国研修としてオーストラリア栄養学研修のほか、ヨーロッパや中国への研修旅行を実施している。

理事長を頂点とする管理運営体制は確立しており、すべての重要案件の最終決定は理事長が建学の精神に基づいて行っている。理事会・評議員会は適切に運営されてい

る。学長は建学の精神（食と健康教育）の学内外への普及に努めている。短期大学部に対しては独自性をいかした教育と研究を行うように指導している。教授会は学則に基づいて毎月開催され、教育研究上の事項を審議し、運営されている。また、事務組織も適切に運営されている。

予算編成および執行は規程に基づいて適切に行われている。財務内容は学校法人、短期大学部とも健全性を維持している。財務情報は、平成 16 年から学校決算書がウェブサイト上に掲載され、適切に公開されている。必要な施設設備は着実に整備されており、管理規程に基づいて適切に管理されている。危機管理対策も適切に講じられている。

平成 17 年度に学園全体の自己点検・評価から短期大学独自の自己点検・評価へ移行し、規程を設け実施した。

## 2. 三つの意見

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 70 年以上前に創意された建学の精神は「食により人間の健康の維持・改善を図る」としている。このことは、食生活の乱れが主な原因となって増えている生活習慣病を予防しなければならないという日本の現在の社会的要請にも応えるものである。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学長自らが実践栄養学演習を担当するなど、当該学園の教育理念である実践栄養学に配慮した専門教育課程が編成されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 栄養士養成校として、栄養士の専門就職の状況が大変良好である。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 栄養士養成の学習の基礎となる「化学」を中心にした基礎学力アップ講座を開講するなど、基礎学力の学習支援体制がきめ細かになされている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域社会との交流活動として、当該短期大学が地元自治体や各種団体と連携して専門分野をいかした取組みを行っている。

評価領域Ⅸ 財務

- 教育研究経費比率は、過去 3 ヶ年（平成 16 年度～18 年度）全国平均を大きく上回っている。

## (2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅷ 管理運営

- 短期大学教授会の構成員については、教授・准教授・専任講師のほか当該学校法人が設置する専門学校教員を含めて運用されているが、学則の教授会の構成に関する規定に即して開催されることが望まれる。

## (3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

### 3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

香川栄養学園は、香川昇三と綾の医師ご夫妻が「食により人間の健康の維持・改善を図る」という建学の精神に基づいて、昭和 8（1933）年に発足した。建学の精神は確立されており、当該学園全ての活動はこの建学の精神に基づいて行われている。学園は現在、専門学校、短期大学部、大学、大学院をもつ「食と健康の総合学園」に発展している。

短期大学部食物栄養学科は昭和 25 年に設立された。教育目的は「人体栄養並びに食生活に関する学術を教授研究し、教養ある社会人を育成する」ことであり、具体的教育目標は「優秀な栄養士ならびに栄養教諭を育成する」ことである。教育目標は定期的に点検され、改善されている。

教育目的や目標についての実現と共有の施策は定期的に審議され、教育の目的と目標についての学生の共有は入学時のオリエンテーションおよび 2 年次の新学期ガイダンスによって周知され、全職員の共有は学長・理事長の年頭挨拶によって周知徹底されている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神・教育理念および食物栄養学科の教育目的に基づき、優秀な栄養士および栄養教諭を育成するための教育課程が体系的に編成されている。

栄養士のほかに、栄養教諭二種免許状およびフードスペシャリストの資格取得ならびに進学を希望する学生のニーズに応えるため、多数の選択科目を取り込んだ教育課程を整備している。

授業内容、教育方法および評価方法は、入学オリエンテーション時に学生に配布・説明されるシラバスに明確に示されている。また、学園ホームページからウェブサイト

トにおいてもシラバスを見ることもできる。

当該短期大学にファカルティ・ディベロップメント（FD）検討委員会を設け、主に学生による授業評価などを検討して、授業内容と教育の方法の改善を図っている。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数は16名であり、短期大学設置基準を大幅に上回っている。

保有する校地および校舎面積は短期大学設置基準の規定を充足しており、教育環境も適切に整備されている。授業を行うのにふさわしい講義室、演習室、実習室が整備されている。

また、情報処理演習室以外の自習室にもパソコン20台を整備し、職員が常駐して多数の学生の情報処理自習を支援している。

図書館は豊富な栄養関係の専門蔵書を有し、充実したサービスを行っている。図書館利用学生数も極めて多く、図書貸し出し冊数も多い。また、図書館は当該学園が発行している月刊誌「栄養と料理」を、創刊号から昭和末期のものまで「デジタルアーカイブス」としてウェブサイトに掲載し、情報を公開している。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法、担当教員による評価は適切に行なわれている。ABCDによる4段階評価によりC以上が合格であるが、平成18年度卒業生の単位認定者は94パーセントであった。また、D評価となった場合も再試験、単位認定試験などの措置が講ぜられるようになっていて、再試験に先立って補講を行うなどきめ細かな対処がされている。学生による授業評価から学生の満足度を各教員が判断することができ、これによって今後の授業への改善の努力が図られている。学業について行けずに退学、留年者が増えないように、カリキュラムの手直しをするなどの努力がされている。

栄養士としての専門就職の割合は、過去3ヶ年について50パーセント前後と、良好である。卒業生に対する就職先からの評価をアンケートにより実施した結果、応用力と実践力を向上させていく必要性があるという課題が明確になり、今後の努力目標となっている。また、卒業生による教育への評価も実施したところ、当該短期大学の教育がおおむね役立ったという評価を受けた。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

「総合大学案内」などに建学の精神・教育理念、教育目標が記載されている。入学者選抜の基本方針は、「能力・適性を公平、公正かつ妥当な方法によって判定すること、また、受験者の個性を大切にし、高校教育を乱すことが無いよう留意する」ことであり、この方針に従って多様な入学者選抜が公正に実施されている。「学生募集要項」は併設大学と同一のものであり、その中に短期大学部の選抜方法が記載されている。さらに、AO入試募集要項、入試過去問題、ウェブサイトなどにより入試関連情報を提供

している。また、入試、広報事務の体制も整備され、入学者に対して適切なオリエンテーションが実施されている。

当該短期大学では、入学時と 2 年次の新学期のための「新学期のしおり」が学生に配布され、これによって丁寧なガイダンスがなされている。学習の基礎になる「化学」については、入学前から講座を開くなど、学習支援体制が整えられている。また、学習上の相談のための体制も整えられている。

学生生活委員会、クラス担任などが組織され、学生生活支援のための教職員の組織が整備されている。学生の休息空間として「ピンクの廊下」が確保され、また、保健センター所長を所属長とし、専任の看護師が常駐する保健センター、学生食堂「カフェテリア」、売店が設置されている。定期健康診断は、保健センターが中心になって毎年初めに実施している。

就職支援の中心は、事務組織としての就職担当職員であり、教員側の組織として、平成 17 年度より、学生生活委員会に就職対策会議が設置され、教員と就職担当職員との連携が図られている。進路支援室を兼ねる就職資料室は、学生に就職や編入学に関する情報を提供できるようによく整備されている。就職率は、過去 3 年間について 100 パーセントないしはそれに近い実績である。

障害者対応については、校舎の現状からみると、全学的なバリアフリー化は困難と思える。しかし、校舎の一部を車椅子対応にしているほか、トイレ、エレベータの改修をするなどの対策がとられている。

## 評価領域Ⅵ 研究

教員の各研究室および共同研究室は整備され、教員に対する研究費は十分に支給されている。研究用高額機器も整備され、研究活動を行うための条件は整備されており、教育とともに研究を重視する姿勢がみられる。

教員は、独自の研究のほかに、公的機関、企業、地域自治体からの食と健康に関わる受託研究を行っている。専任教員 17 名の過去 3 ヶ年の業績は、著書 23 編、論文 16 編、学会発表 7 編、その他 10 編である。また、FD 委員会を中心として教育にかかわる研究も活発に行っており、医学教育賞を受賞した教員もいる。教員の研究活動は堅実に展開されていると評価される。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

建学の精神を受け、食・栄養・健康教育の各分野において、栄養知識・健康知識の普及に努めている。

地域社会との交流活動として、短期大学部が地元自治体や各種団体と連携して専門分野をいかした取組みを行っている。

栄養教諭希望学生が地元小学校に対する「食に関する指導」や地元自治体との交流事業でボランティア活動をしている。

国際交流活動については、留学生の受け入れおよび派遣は過去 3 ヶ年ない。

外国研修としてオーストラリア栄養学研修のほか、ヨーロッパや中国への研修旅行を実施している。また、平成 18 年度にモンゴルで児童栄養調査を行っている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

定期的に常任理事会が開催されており、すべての重要案件の最終決定は理事長が行っている。また、学長は「研究に裏打ちされた社会に役立つ教育」を目標において、教授会を通して全教員に指示を行っている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

財務については、学校法人全体で捉えており、過去 3 年間収入超過で推移しており、健全な財務体質を維持している。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

平成 17 年度に当該学園全体の自己点検・評価から短期大学独自の自己点検・評価へ移行し、規程を設けて実施した。また、学生の授業評価による授業方法の改善や FD 検討委員会における e-learning（学習活動の主たる場面でインターネット等の情報通信技術を活用した授業）の活用の推進など、着実に自己点検・評価活動が進められている。